

Lecture Series in Architecture Chiba University

第1回『建築は今どこへ向かおうとしているか』

建築シンポジウムのお知らせ

日時： 4月22日(木) 17:30-20:00 (開場 17:00)

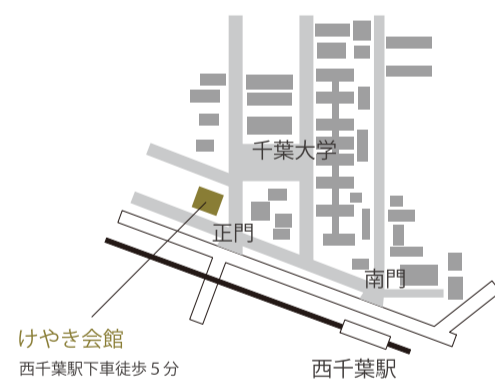
場所： 千葉大学・西千葉キャンパス・けやき会館大ホール

パネリスト： 植田実, 小巻哲, 松田達, 岡田哲史 (コーディネータ)

参加費： 500円 (講演後の交流会における飲食費込み)

申し込み： 不要

詳しくは、以下のホームページをご参照ください。 <http://www.okada-lab.com/>



植田 実

1935年東京都生まれ。早稲田大学文学部卒業。編集者。『建築』編集を経て、1968年に『都市住宅』創刊編集長として斬新な雑誌づくりで建築界に新風を巻き起こした。その後、『GA HOUSES』編集長などを経て、現在、住まいの図書館出版局編集長。戦前の住宅作品から現代の若手建築家の作品まで、旺盛な好奇心で見て歩き、長い時間的スパンで数多くの住宅を取材、体験してきた。磯崎新、原広司、安藤忠雄、毛綱毅暁、伊東豊雄らの才能をいち早く見だし紹介した功績は大きい。企画・編集・執筆のみならず装幀の分野でも活躍し、さまざまなジャンルの人々との交友を深めている。2003年日本建築学会賞文化賞受賞。

松田 達

1975年石川県生まれ。建築家。京都造形芸術大学、桑沢デザイン研究所非常勤講師。建築系ラジオ共同主宰。東京大学工学部都市工学科卒業、同大学大学院建築学専攻修士課程修了、同博士課程単位取得満期退学。隈研吾建築都市設計事務所を経て、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリにて研修。パリ第12大学パリ・ユルバニスム研究所にてDEA取得。吉村靖孝建築設計事務所を経て、2007年松田達建築設計事務所設立。第12回タキロン国際デザイン・コンペティション入選ほか受賞。共著『建築・都市ブックガイド21世紀』(彰国社)ほか。作品『リスボン国際建築トリエンナーレ帰国展会場構成』『フラックスタウン・熱海』ほか。建築と都市計画、建築と批評、建築とメディアといった異なる領域を横断する活動を試みつつ、新しい建築家像を模索する。

小巻 哲

1954年千葉県生まれ。編集者。早稲田大学理工学部建築学科卒業。1979年から2002年まで(株)エーディーエー・エディタ・トーキョーにて、GA-DOCUMENTなどの主要刊物を担当。1996年から1999年までGA-JAPAN副編集長。2003年スタジオ・コマキ設立。『日本の現代住宅1985-2005』(TOTO出版)、『日本のモダニズム建築』(彰国社)、『道具学への招待』(ラトルズ)ほか、多数の書籍編集に関わる。2007年より、イタリアの建築誌『CASABELLA』の日本語版リーフレットの編集・監修を行う。企画・編集に携わった最新刊としては、『磯崎新の建築・美術をめぐる10の事件簿』(TOTO出版)がある。

岡田 哲史

1962年兵庫県生まれ。建築家、千葉大学大学院准教授。コロンビア大学大学院修了後、早稲田大学大学院博士課程修了(工学博士)。日本学術振興会特別研究員、文化庁芸術家在外研修員、コロンビア大学大学院客員研究員(ケネス・フランプトン教授に師事)を経て、1995年岡田哲史建築設計事務所(旧称岡田哲史建築都市計画研究所)設立。デダロ・ミノッセ国際建築賞グランプリ、ロシア国際建築賞グランプリ、シカゴアテナウム国際建築賞、日本建築学会賞(技術)ほか受賞。2009年"Satoshi Okada"(作品集)がエレクトラ出版社から刊行された。2010年ヴェネツィア建築大学客員教授。2010年の年末からミラノをはじめヨーロッパ巡回個展が開催される。設計実務を行う傍ら、建築の近代性を巡る研究および現代建築を社会的視点から分析する試みを行なっている。著書に『ピラネージの世界』(丸善)、『廃墟大全』(共著、中公文庫)ほか。